

柳川市民文化会館「Suito（水都）」

第一回 喜多流『水都柳川能』公演

能 船弁慶

狩野 了一

狂言 清水

野村 万禄



◆ 令和4年9月19日(月・祝)

午後2時 開演 (午後1時 開場)

◆ 柳川市民文化会館

福岡県柳川市上宮永町43番地1

◆ 入場料／指定席 前売り¥4,000 (当日¥4,500) 自由席 ¥3,000 (当日¥3,500)

◆ チケット お申込み 問い合わせ
・柳川市文化協会謡曲部／〔井上〕携帯 090-5927-7426・〔山崎〕携帯 090-7476-8083
・大牟田喜多会／〔下川〕携帯 090-3079-1917
・久留米地区／〔中村 勝〕携帯 090-8624-1903
・福岡県喜多流教授教士会(大牟田)／〔川崎〕携帯 090-7115-2158
・喜秀会事務局〔狩野〕TEL096-325-6686/FAX096-325-6690

主催／『水都 (suito) 柳川能』実行委員会 事務局 (高山) 携帯090-2398-8203

後援／柳川市・柳川市教育委員会・柳川市文化協会・福岡県喜多流教授教士会 (福岡・久留米・大牟田)

柳川商工会議所・柳川市商工会・柳川農業協同組合・(一社)柳川市観光協会・大牟田喜多会・大川喜謡会

〈解説〉金子敬一郎

番組

14:20 素謡 翁 友枝雄人 狩野祐一

塩津圭介
大島輝久
粟谷充雄
友枝真也

〈金春流〉

舞囃子 高砂 立花笙子

大鼓 白坂 信行 大鼓 田中達
小鼓 古田寛二郎 笛 浦政徳

狂言 清水 シテ野村万禄 アド吉住講

休憩 二〇分

15:30 頃 能

子方 狩野直奈
シテ 狩野了一

船弁慶

ワキ 飯富 雅介
ワキツレ 岡 充

大鼓 白坂 信行 大鼓 田中達
小鼓 古田寛二郎 笛 浦政徳

アイ 野村万禄

後見 中村邦生 友枝雄人
狩野祐一

井上勝晴 友枝真也
渡辺康喜 粟谷充雄
塩津圭介 金子敬一郎
北原浩吉 大島輝久

附祝言

終演予定 午後五時頃

※上演中のビデオ撮影・録音・写真撮影は固くお断りいたします。携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りください。その他の音のなる機器のご使用はお控え下さいませ。

清水 あらすじ

主人から、茶会で使う水を野中の清水へ汲みに行くように命じられた家来の太郎冠者は、面倒なので、あのあたりは鬼が出るから嫌だと断りますが、主人は承知せず家来の桶を持たせて追い出します。太郎冠者が鬼が出たと言っていると、主人は家来の桶を借し、みずから清水へ行くといいたします。先回りした冠者が鬼の面をかぶって脅すと、主人は命乞いをして逃げ出しますが、鬼がなにかと太郎冠者をひいきにするので、冠者そっくりの鬼の声を不審に思い、再び清水へ確かめに行きます。冠者はもう一度鬼に扮して脅すものの、今度は正体を見破られ、主人に追われて逃げて行きます。

船弁慶 あらすじ

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着します。義経の愛妾、静（しずか）も同行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあつて、都に戻ることにしました。別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を願いながら、涙にくれて義経を見送ります。静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、増ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であつた平知盛（とももり）の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に平家一門の怨霊を退治します。その祈りの力によつて、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。

この曲の前後のシテは、美しい白拍子と恐ろしい怨霊という、まったく異なつた役割となつていきます。優美さと勇壮さの対照で織りなされ、前場には優美な舞が、後場では薙刀を振るう荒々しい舞動が用意されており、謡い、囃子の強弱、緩急も全く異なつたものとなります。変化に富む大変劇的な曲です。また、舞台が大物の浦の船宿から大海原へ展開していく様子は、作り物の舟だけで見せていきます。ここは、アイの船頭の腕の見せ所で、船をこぎながらのワキとのやりとりや嵐が始まってからの棒さばきなど、本曲に荒れ狂う海が見えるかのような所作が見られます。

【会場案内図】



〒832-10058
柳川市上宮永町四三番地一
TEL 0944-173-7777